

童

2019年3月15日。

ふき味噌の苦さを味わい、春の訪れを確実に実感するこの季節。雪解けの早さ、除雪回数の少なさ、薪の減り方、そして、子どもたちの顔の黒さの濃淡からも、暖冬が進み、冬が確実に短くなっている事を感じます。様々な行事も、一ヶ月位、早くすることが必要になっているように感じます。

旧豊野町に、アップルラインというリンゴの本場がありましたが、現在は標高の高い（寒い）飯綱町や山ノ内町などのリンゴが本場となり、お隣の信濃町は寒すぎて、米やトウモロコシなど以外、果樹はできないと言われてきました。でも、暖冬化が進むに連れて、近い将来、リンゴの本場は信濃町へ、そして常時雪遊びできる幼児施設は、豪雪地と言われていた場所へ移動していくと思います。大地も、今のうちに、妙高あたりに土地を購入しておこうと思っています！？

それでも、何だかんだ言っても、雨でも雪でもたぶん、どんな悪天候（大人はそう言うが 子どもにとっては、雪崩以外嬉しい事）でも一日も欠かさず必ず外遊びをしてきた子どもたち。大地の女性スタッフは、凄いです。雨でも嵐でも風でも、一度もどうしましょうかと迷いや躊躇することなく、あたり前の如く、外遊びに出かけます。これは、子どもたちの真の喜びを理解しているからです。どんな環境も食べ物も遊びもおもちゃも時間も、大人が嫌だと思えば、大人の表情や言葉やエネルギーに現れ、それは子どもに確実に反映します。ごまかしはききません。

こうして、子どもたちが毎日びしょびしょになり、泥だらけになり、自然と戯れて遊べるのも、ご家庭の理解と応援の賜ですが、このうら若き女性スタッフの心意気とエネルギーも、素晴らしい宝物です。そんな多くの人達のエネルギーに支えられて、今年度の幕は閉じます。



【平和と仕事】

先日、初めて長男と次男がそれぞれの子どもを連れて、大地で勢揃いしました。誰もが言うように、確かに孫は可愛い一言ですが、長男次男がお互いの子どもたちを可愛いと言って、仲良くしている光景に更に感動しました。

青山家の兄弟弟達は、以前童にも書きましたがとても仲がよく、それを見ているだけでも幸せです。そして、それぞれの家庭を持つにつれて、その環が更に仲良くなっていく事をもちろん願っています。家族は社会の一番小さな共同体、世界だけに、この集団内が思いやりに溢れ、互いのことを気遣い、助け合い、平和でなければ、とても社会貢献、ボランティア、平和貢献なんて大きな声で言えません。それだけに、小さい頃から家事や家の仕事などを、家族兄弟で助け合いやっていくことが必要となります。今は懐かしい皿洗い食器片付けの順番決めや常に家族で動く事を優先してきた事が、少しは役に立っていると実感しています。

長男も次男も世に言う結婚式はやらず、祖父母・両親・兄弟だけで、手作りパーティで行いました。皆仲良く話し、どういう訳か、ギターやピアノで歌い、老若男女楽しくお祝いしました。その後、長男の引っ越しや暮らしのお手伝いに兄弟達が手伝ったり、遊びに行ったり、健康のこととアドバイスもらったり、末っ子も、外国旅行のアドバイスはしつつこいほど訪ねたり。娘の外国特にネパールやアジア熱も、もちろんこの長男のアドバイスからでしょうか。

そんな長男の子どもの誕生を、やはり皆で喜び祝い、更に長男の妻の暖かいフレンドリーな心に兄弟達も迎えられ、更に仲良くなっていったように思います。

長男と次男は対照的な暮らしをしながらも、次男もいろいろアドバイスを求めていたらしく、学生の次男の結婚（通称、でき婚）に対しては、青ちゃんが反対しようとも、どうにかしてあげると意気をあげていたようです。娘は「お父さんはああ見えても古風だから」と心配していたようです。もちろん、青ちゃんは諸手を挙げて喜びましたが。長男と次男の子育ても対照的ですが、お互いを認め合い、批判せずに、長男もよく次男の家を自家生産物手作り品を持って訪ねているようです。

長男は、お金と引き換えの労働はしておらず、暮らしを作る仕事をしています。次男は、現在学生から子どもを育てる育児仕事をしています。娘は、料理や山小屋の暮らしを楽しむために好きな場所を見つけて暮らしを楽しんでいます。末っ子は、学生をまもなく卒業し、海外留学して更に外国で暮らそうとしています。ここまで共通して仲がいいか！！と思ってしまう。現在、誰もお金を得るための仕事をしていません。

仕事は、本来自己実現の手段であったはずですが、現在では、お金、対価、自分の時間を切り売りしてお金を稼ぐと言う事が大筋になっています。それとは別に、仕事と言う言葉と、とても便利な切り札にもなります。何かを断る、諦める時の絶対的な切り札になるからです。人間の何かできない言い訳のなかで、「お金がない」「時間がない」「仕事が忙しい」がよく使われます。会合などの欠席の理由では「仕事で欠席です」が、誰もが納得させる殺し文句ですね。

しかし、青ちゃんもよく使ってきただけに、気づきました。これは、2回位しか通用しないことに。お金を求めることが、その仕事が人生で最高に大切なことなのか（お金の亡者？）、優先順位がお金の仕事なのか、予定が事前に分かっているのに、仕事を調整できる管理能力がないのか、あなたの優先順位は何なのか、それは、相手の事よりも、仕事を大切にしているという自己利益を相手に示してしまうこと、それは結局、信頼と信用を失っていくことだと。仕事で駄目ですを頻りに断り続ければ、お金の亡者であり、何よりも仕事優先であるので、誰も信頼して何かいい情報をもたらそうとしてくれないし、結局自分に返ってくるので、困っても、仕事で忙しいので助けにはいけませんとなってしまいます。すなわち、仕事を切り札に断ることは、人間性を疑われ、人間関係を断ち切ってしまう怖れがあります。これに気づいて以来、どうしても仕事で断る場合は、その内容と優先順位を丁寧に説明するようにしていますが、なるべく断る理由として、仕事はあげないようにしています。

話はそれでしたが、子どもたちは、現在、お金の縛られる仕事はしておらず、こんな理由で断る事はないので、仲の良い人間関係が生まれているのでしょうか？・・・仲の良い平和の原点を考えさせられます。

娘は現在白馬のペンションで住み込みで働いていますが、帰って来ると、長男の所へ出かけ、一緒にバックカントリーを楽しんだり、次男の所へ赤ちゃんに会いに行ったり。末っ子も、長男の所へ行ったりして、兄弟達は、入り乱れて交流しています。そう言えば、兄弟の中で一番パスポートを使わない次男（外国よりも国内）も、数年前、長男と2人で、ニュージーランドで数週間車中泊しながらスキーを楽しんだ事もありました。冷静に振り返ると、友だちのように、過去も現在も、兄弟で仲良く暮らしている事に幸せを感じます。

さて、皆が可愛がっている末っ子は。鍼灸の国家試験発表待ちをしている現在、アルバイトを語学留学そしてワーキングホリデーで海外へ行こうと熱心に調べているらしい。お金を貯めるために、とうとう兄弟4人目となるか、山小屋を検討しているらしい。そして、そうかと思うと、4月に台湾へ旅行するという連絡があった。必死だと思っているのに、一体誰とそんな時期に余裕があるなあと思っていた。そこへ、娘が長男とスキーをしに帰ってきた。

娘曰く「4月下旬に2週間ほど、ゆうな（末っ子）と一緒に台湾へ自転車の旅に行ってくる」と。